

第6節 その他構内の立会調査

経済学部7号職員宿舎公共下水道切替に伴う立会調査

調査地区 山口市白石2丁目8-7 経済学部7号職員宿舎構内

調査期間 昭和63年4月1日

調査方法 工事施工時における立会調査

調査面積 約1㎡

調査結果 当該地域は弥生時代から古墳時代の集落跡である、教育学部附属山口小・中学校敷地の西方約200mに位置する。北側の丘陵上には茶臼山古墳群、鴻ノ峰古墳群、糸米遺跡等の古墳時代の埋葬跡が所在し、過去において当該地域での調査が全く行なわれていないことから、工事規模を勘案して立会調査を実施した。

工事は生活排水を公共下水道に接続するために排水管、汚水枡を埋設するものである。調査は掘削規模の大きい汚水枡を中心に、2地点を選定して行なった。A地点では現地表下42cmで層厚10cmの旧耕作土が観察され、その下位に層厚28cmの客土を介してさらにもう1枚の旧耕作土が確認された。下位の旧耕作土の層厚は工事の性格上確認できなかった。A地点の南東約15mに設定したB地点でも層順は同じである。なお、現地表下50cmで層厚20cmの2枚目の旧耕作土の直下に、地山と考えられる青灰色礫混じり粘土を検出した。しかし、遺構は確認していない。

また、同敷地の北側の水田では須恵器、歴史時代の土師器、瓦質土器、土師質土器、陶器など約20点を表面採集した。遺物は中世から近世のものが主体であることから、周辺地域に当該期の未周知の遺跡が埋存している可能性がある。(河村)

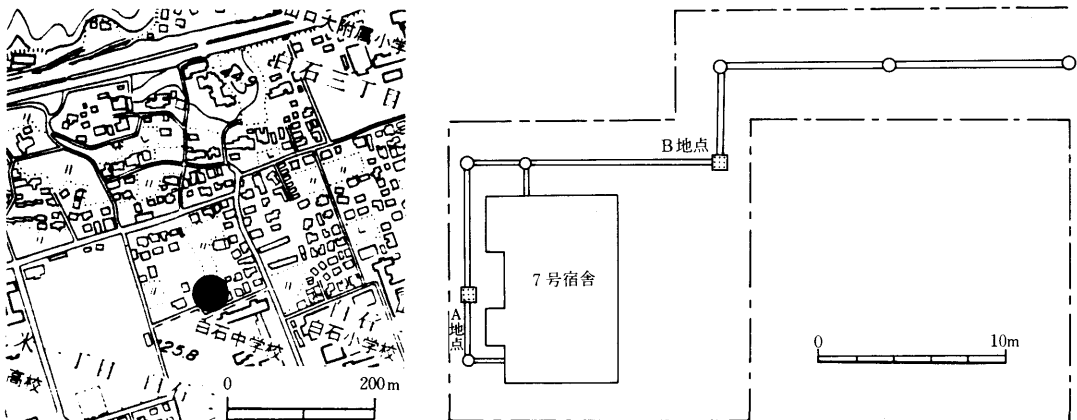


Fig. 20 調査区位置図